

全佛通信

六月号

発行所 全日本仏教会
東京都中央区築地
三ノ一(本願寺内)
電話 〇二九六九
〇八六六六
〇三六一三
振替 東京三三七〇〇
発行人 阿部寛臣
編集者 伊東聖祐
印刷所 ルンビニ社
一部 二〇円

長野大会に参加しよう

第十三回

全日本佛教徒会議

長野大会にのぞむ

組織局長 黒田白純



全日本佛教徒会議は、八月二十八、九の両日にわたって、長野市に開催されることになった、しかも本年は第十三回にあたるので、地元長野県仏の半田会長以下一、五、四二カ寺にわたる会員各位の物心両面に於ける努力は、一に大会の成功を期して盛んなり上りを見せている。

長野県は南北にわたる広大な面積を有しているが、山又山で交通面でも、全県下の会員が一堂に会する機会も少く、したがって、今

大会の開催についても並々ならぬ幾多の障害があったこと、思う。会議につづく会議、理事、郡市会長の人々は泊り込みのことも再三に及び、厳寒の寺院会議は正に炎暑の下で催される大会に通ずる、けわしい途でもあったのである。惟うに十三回に及ぶ大会は、それぞれこの時々にあふさわしい企画を持ち、社会世相を反映して有形無形の所産を残して来たが必ずしも満足すべき成果ではなかったと思はれる。しかし乍ら今日迄の大

会開催地の方々の熱意、又は全国各地から千里の道を遠しとせずに参加された幾多の方々に行願は尊く、あとにつづく人々に大きな勇氣を与えずにはおかないであらう。長野大会に望まれる事はしからば何であらうか、細長い日本地図の中で海の無い県、若人が押せ押せで登る山岳の県、一生に一度の悲願をいだいて参る善光寺のある県、それにも増して、今次大会が開催される事実に対し、仏教徒たるものは、万障を排して之に参加しようとする熱意を持つ事ではないだろうか。

全国各地から参加される方々は宗旨宗派も違い、各々その立場も異り、従って何を第一に議せんとするかは論のわかれる処であるが、共通の広場はある筈であるし、又さがし求めてもそこまで到達しなければならぬと思う。冷淡なる傍観者の存在はゆるぎない。人それぞれに希望があり苦悩があるが、ささやかな身近な問題も家外に見のがしていやしないか。

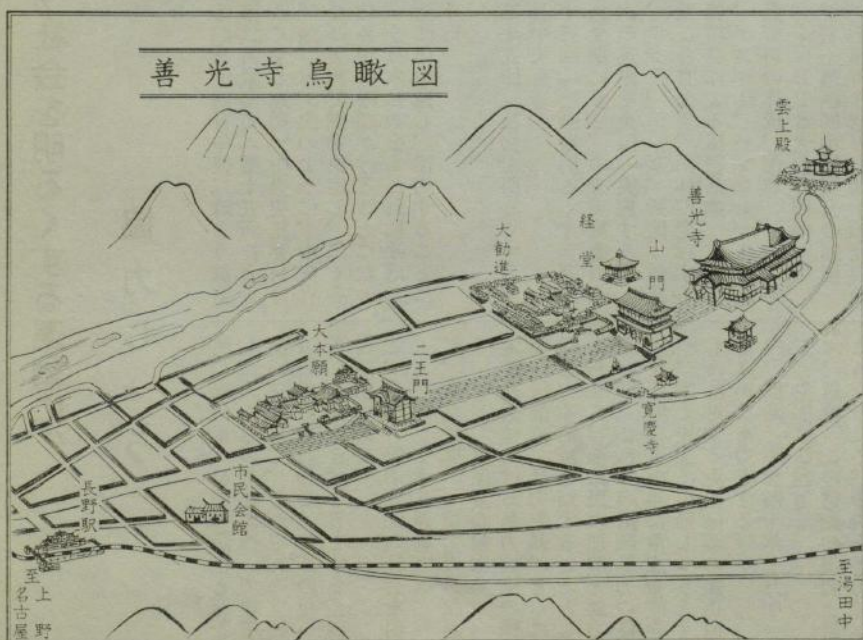
寺院護持の問題、檀信徒教化の問題等は、住職一人の力ではどうして見ようもない。地域社会に於ける連携が好くなされていくか否かによって、一步が踏み出されるものと思はれる、たとえばA寺で法要や行事を催すとしても近接のB寺やC寺が連携して呉れなければ集る人々も少く、実効は挙げないし、一歩まちがって、B寺やC寺が反対の拳に出ればも早や答は明瞭である。

地域社会の仏教徒が提携して一人寺院のみに限らず外護の任にある檀信徒をも含めた、チームワー

クを強化して行く処に、新興宗教による侵蝕もなく、拱手傍観の悲劇もなくするのはあるまいか。今こそ全日本仏教徒は、熱情をもって大会に参加すべきである、そして会議を開こう、人々の声を聞こう、胸襟を開いて語ろう。幾多の諸問題に対処して力強く解明して行かうではないか。今次大会こそは仏教徒の大同団

結の基礎をかため、更には世界の諸宗教と提携して真の平和を招来せんがための原動力たらん事を切願するものである。大会開催に至る迄の地元長野県仏、市仏の絶大なる御尽力と関係される方々の御奉仕に対して深く感謝すると共に、今次の大会が大成功をおさめる事を祈念して止まないものである。

善光寺鳥瞰図



長野大会開催要項

われら仏教徒は大同団結して世界
の諸宗教と提携し、真の平和を
招来しよう！
(本年度スローガン)

(趣 旨)

全日本仏教徒会議は十三回を迎え長野に開催されることになった今や宇宙開発の実現は人類の幸福を招来するや否や、実にその運用にありと痛感されるの時、東南アジアの一角においては世界戦争の危機をはらむような深刻な様相をみせている。

文明の進歩が一切の不安を解き人類をもろもろの苦悩からはたして解放できるであろうか？ われわれ仏教徒はこの冷徹なる現実を直視し今こそ大同団結して世界の諸宗教と提携し、真の平和と人類福祉のための原動力たらんとするものであるが、当面せざるを得ない諸問題にいかに対処するか、具体的な討議考究を遂げんとするものである。

昭和四十年六月一日
財団法人 全日本仏教会

記

期日 8月28日(土)午前八時受付

会場 長野市市民会館・善光寺

定員 二、五〇〇名

参加申込

1、参加資格 全日本仏教会加盟団体の推薦者

2、参加費 千円

3、申込切 七月三十一日

(厳守)

4、申込先 東京都中央区築地3の1(本願寺内) 全日本仏教会大会事務局宛

日程 第一日(8月28日)受付八時開会式 午前九時

記念講演 十時

総会 十時四十分

アトラクション(無形文化財諏訪太鼓) 午前十一時三十分

休憩・中食 十二時

各部会 午後一時、五時

第一部会(全仏組織・文化関係) 於 大本願

第二部会(全仏総務・国際関係) 於 寛慶寺

第三部会(仏婦活動関係) 於 市民会館

第四部会(仏青活動関係) 於 市民会館ホール

第五部会(担信徒教化関係) 於 大勸進

第二日 (8月29日) 受付八時三十分

総会 午前九時

閉会式 午前十一時三十分

観光出発 午後二時(予定)

宿泊① 宿泊費千三百円(一泊二食)

② 申込先 長野市善光寺大勸進大会事務局宛

観光①Aコース

○ 善光寺遊覧、戸隠飯綱高原
観光とリンゴ狩り
所用時間 三時間
料金 七百円

△(行程)
善光寺―雲上殿(参拝)
―雲上台駅―ロープウェイ
―地附山頂―(有料道路)
―戸隠飯綱高原―大座法師
池、一の鳥居―雲上殿―
(遊覧)―往生地リンゴ狩
り―長野駅(散会)
Bコース
善光寺遊覧と上山田温泉い
で湯の旅、
料金二千五百円(一泊二食

△(行程)
善光寺―雲上殿(参拝)―
(遊覧)―上山田温泉泊
(一級旅館)
Cコース
志賀高原観光と洪温泉いで
湯の旅
料金三千円(一泊二食)

△(行程)
善光寺―志賀高原観光(丸
池)―洪温泉泊
宿泊、観光の申込先
長野市善光寺大勸進
大会事務局宛
電話02622(2)2162

△(行程)
特別公演「天平のいらか」
8月28日夜
29日昼夜
前進座

大会協賛
特別公演「天平のいらか」
8月28日夜
29日昼夜
前進座

// 社会を明るくする運動に //

協力しよう

去る四月十四日午後二時より法務省第二会議室で「第十五回社会を明るくする運動」中央実施委員会が開催され、次のように、中央行事及び実施要綱を決定し、広く各団体各層に呼びかけることになった。全日本仏教会もこれに呼応し加盟団体を通じ、協力することになった。

◎第十五回「社会を明るくする運動」中央行事

第十五回「社会を明るくする運動」実施要綱に基づき、中央実施委員会は次の運動を企画、実施する。

1、ラジオ、テレビ、新聞、雑誌及び各官公署、団体の発行する機関誌による広報活動

2、ポスター、パンフレット、運動資料の作成、配布

3、全国BBS大会の開催

4、名土書画展示即売会の開催

5、刑務所作業製品展示即売会の開催

6、矯正、更生保護事業に対する民間協力功労者の表彰

7、「社会を明るくする運動」民間協力功労者の表彰

8、その他この運動にふさわしい行事

ての国民が、犯罪の防止と罪を犯した人たちの更正について理解を深め、進んで、それぞれの立場において力をあわせ、犯罪のない明るい社会をささげようとする全国的な運動である。

二、名称 第十五回「社会を明るくする運動」

三、重点目標 「暴力の排除と更生保護の強化」

地域社会における暴力排除の機運を一層高め、暴力犯罪、とくに組織暴力の絶滅を期することとし、あわせて、国民の理解と協力のもとに、これらの組織暴力の温床となる非行青少年に重点を置きつつ、広く社会に復帰しようとするものに対する更生保護の強化徹底をはかるものとする。

四、期間 昭和四十年七月

五、主唱 法務省

六、組織 この運動の実施と推進にあたるため、中央と地方に「社会を明るくする運動実施委員会」をおく。中央実施委員会及び地方実施委員会を置く。

七、運動の方法

この運動の趣旨、目標をすべての国民に周知徹底し、地域住民の関心が高められるように広報宣伝を行なうとともに、学校、職場および地域における各種団体の積極的参加、協力を得て、諸々の運動を展開するものとする。

昭和39年度財団法人
全日本仏教会
歳入歳出決算書

歳 入		歳入予算額
1 金	13,475,000円	歳入決算額
1 金	12,861,343円	歳出予算額
歳 出		歳出決算額
1 金	13,475,000円	歳計剰余金
1 金	12,840,814円	銀行預金(40年度繰越)
1 金	20,549円	振替貯金(")
	19,442円	" (")
	683円	(175円銀行預金退職積立金)
	424円	

昭和39年度財団法人全日本仏教会
歳入歳出決算
歳入の部

科 目	予算額	決算額
1 負担金	11,910,000	11,233,500
1 各宗派各負担金	10,620,000	10,358,400
2 各団各負担金	1,290,000	875,100
2 寄付金	470,000	470,000
3 未徴収金	100,000	105,000
4 基金果実	35,000	35,350
5 雑収入	950,000	1,000,355
6 繰越金	10,475,000	17,158
歳 入 計	13,745,000	12,861,363

歳出の部

科 目	予算額	決算額	備考
1 事務局費	7,367,000	7,347,039	
1 人件費	4,847,000	4,807,091	
1 職員給	3,330,000	3,328,400	
2 諸給	1,084,000	1,069,733	
3 厚生費	200,000	175,958	
4 退職積立金	233,000	233,000	
2 事務費	1,250,000	1,251,457	
1 借館室費	450,000	450,000	
2 通信費	400,000	404,011	
3 消耗費	50,000	51,410	
4 光熱費	20,000	13,010	
5 備品費	150,000	167,016	
6 印刷費	150,000	136,610	
7 雑諸費	30,000	29,340	
3 旅費	700,000	688,491	
4 関西事務局費	600,000	600,000	

2 総局務費	1,711,000	1,389,500
1 会議費	741,000	526,980
1 理事会費	81,000	20,400
2 評議員費	110,000	45,600
3 各種委員費	200,000	128,097
4 会議費	350,000	332,883
2 共通事項処弁費	220,000	214,300
3 調査研究費	200,000	191,380
4 資料作成費	150,000	74,640
5 渉外費	400,000	382,200
3 組局織費	2,500,000	2,435,055
1 組織強化費	550,000	458,979
1 組織強化費	700,000	458,752
2 国内仏教徒会議費	700,000	698,752
2 時局対策費	700,000	719,280
3 弘報費	500,000	558,044
1 機関誌発行費	450,000	462,192
2 広報伝通費	100,000	95,850
4 文局化費	800,000	744,574
1 文化会議費	300,000	293,211
2 教化費	500,000	451,363
1 講習費	150,000	197,897
2 教誨費	350,000	253,466
5 国際局費	910,000	909,766
1 国際運動費	910,000	909,766
1 海外仏教使節接待費	300,000	313,135
2 世界仏教徒文化交流費	160,000	148,240
3 国際仏教運動費	450,000	448,391
6 雑費	77,000	14,880
7 予備費	80,000	0
0	213,000のうち	133,000退職金
歳 出 計	13,475,000	12,840,814

上記の通り、昭和39年度本会事業報告並びに決算報告致します。
昭和40年4月23日

財団法人 全日本仏教会
理事長 荻 輪 英 章 印

監査の結果、証憑も完備し収支が適正に行なわれていたことを認めます。

昭和40年4月23日

財団法人 全日本仏教会
監事 藤川 博 印
監事 長岡 慶 信 印
監事 萩原 大 瑩 印

昭和三十九年度 財団法人全日本仏 教会事業報告並び に決算書

事業報告書

事業の報告

- (1) 加盟仏教団体相互の連絡、提携および親睦
 - 六月 新潟地震対策協議会開催
 - し、新潟、山形、秋田県仏教会を通じて見舞金品を送付。
 - 七月 山陰、北陸水害に対して見舞金品を島根仏教会を通じて送付。
 - 九月 日本仏教文化会議金沢、七尾大会に出席。
 - 十一月 長野県仏教会との懇談会出席(開催)
 - 一月 神奈川県仏教会総会に出席。
 - 二月 北海道冷害救援運動に着手。
 - 二月 長野県仏教会理事會および大会委員会出席。
 - 二月 仏教々化運動の総合的企画および促進
 - 六月 第一二回全日本仏教徒會議静岡大会開催。
 - 七月 全仏講習会開催。
 - (3) 諸官庁および関係諸団体との連絡。
 - 四月 墓地問題打合せ開催。
 - 四月 仏教書道社設立発起人会出席
 - 五月 墓地問題連絡会開催。
 - 八月 東京高裁墓地行政訴訟控訴棄却判決下る。
 - 十一月 政府派遣インドネシア宗教代表推薦方依頼を日本宗教連盟宛なす。
 - 一月 参議院議員選挙に際して

東京都選挙管理委員会に問い合わせ。

二月 農地問題について全国農地同解放者盟全国会長会に出席

仏教界に関する調査および研究。

(4) 七月 北海道仏教会連盟組織強化のため地元と懇談会開催。

九月 東西哲學者會議出席者歓迎報告会開催。

十月 仏教系学校の組織調査を行う。

加盟団体の基礎資料作成のため調査。

一月 各宗の檀信徒の組織および教化のため調査。

各宗仏教運動の実践および育成

(5) 四月 読売ランド仏舎利奉迎式典協力。

第三回日本仏教文化會議京都大会開催。

六月 日本仏教文化會議京都大会開催。

地域仏教研修会並に仏教文化講演会開催。

七月 地域仏教研修会(富良野)開催。

全仏講習会を札幌で開催。

八月 現代仏教芸術院展協賛。

九月 読売ランド仏舎利遷座法要につき協賛。

読売ランドの仏舎利聖はつ奉迎式典につき協賛。

十二月 目黒仏教会成道会出席。

神奈川県仏教徒會議出席。

各国のWFBセンターおよび仏教諸団体との連絡。

五月 大韓仏教曹溪宗宛日韓仏教交流につき照会。

WFB日本支部センター事業

報告書送付。

十月 日本仏教徒沖繩訪問につき、便宜供与方を沖繩仏教会へ依頼。

海外物故者追悼法要に協力せる在外各宗代表者へ礼状送付

十一月 香港仏教会僧伽連合会へ訪日につき照会。

十二月 日米沖繩戦々没者追悼万国平和祈念団の派遣につき沖繩仏教会へ便宜供与依頼。

(7) 世界仏教徒會議への参加および協力

十一月 第七回世界仏教徒會議印度大会へ代表派遣。

仏教および仏教徒による国際親善および文化交流と促進。

四月 仏舎利奉持セイロン仏教代表団歓迎会開催。

全日本仏教会々長ブラジル文化功勞章受章。

五月 ネール印度首相の死に対し、印度政府へ弔電。

印度大菩提會事務総長ヴァリシンへ師歓迎会開催。

六月 訪デンマーク仏書贈呈日本仏教親善使節団派遣。

印度首相ネール氏追悼法要修行。

八月 オリンピック選手団礼拝寺院設置につき、在日各国大使館へ通知。

訪日中国仏教代表団歓迎会開催。

南ベトナム仏教統一總會へ国訳一切送付。

十月 南ベトナム トム・ヂャック師歓迎会開催。

十二月 セイロン国立大学よりの要請につき、各宗派へ依頼(仏像等)

一月 大谷よし雄参議員訪ベトナムにつき、現地仏教会へ連絡。

香港仏教代表来日。接待。

二月 政府派遣インドネシア遺骨取集団宗教代表安長師帰国歓迎会開催。

セイロン台風救援金募集を加盟各団体に要請。

三月 マララセケラ博士歓迎会開催。

ベトナム戦争犠牲者追悼法要修行。

カトリック司教との懇談会開催。

(9) その他目的を達成するために必要な事業

九月 オリンピック特集英文仏教誌発行。

十月 オリンピック礼拝所開所式。

十月 NTV放送番組で抗議。

十一月 真言宗各派合同教学大会協賛。

印度仏跡巡拝・各国訪問団募集

一、期間 第一班、十一月六日(土)出発、
十二月三日(金)帰国、
第二班、十一月十三日(土)出発
十二月十日(金)帰国

夫々二十八日間

タイ、ビルマ、印度、ネパール、
セイロン、マレーシヤ、香港、
台湾

一、旅 程

一、費用 金五十五万四千円

一、人員 両班とも二十名迄

一、資格 加盟宗派、仏、団体の推せん
する方で僧俗男女を問いません。

一、申込 九月末日迄

一、申込 全仏国際局あて、日程表等は国際
局にごさいます。

一、申込 直通電話 (542) 二九六九番

一、申込 全日本仏教会

主催 全日本仏教会

主 催

全日本仏教会